

文化庁 令和4年度大学における文化芸術推進事業
社会的包摂を具現化させるアートマネジメント人材育成事業

feel in art
アートで感じる
about
インクルージョン・
Inclusion
ダイバーシティ
Diversity
diversity



主 催 | 鳥取大学地域学部 (担当教員: 川井田)
お問い合わせ | アートで感じるインクルージョン・ダイバーシティ事務局 (野口)
am2022tottori@gmail.com

文化庁

大学から
文化力
POWER OF
CULTURE

アートで感じる インクルージョン・ ダイバーシティ



近年、「インクルージョン」「ダイバーシティ」という言葉がよく使われるようになりました。

社会的格差が拡大している状況に違和感を抱き、ちがいを認めあい、一人ひとりの存在を大切にできる社会の実現をめざそうとする人々が増えているからかもしれません。この事業では、表現活動を通じて多様な人々と出会い、交流することによって新たな視点を発見しようとする方々を講師に招きます。“アート”の語源には「技、技術」という意味があります。各講師の日々の実践は、異なる価値観を起点に、さまざまなコミュニケーションをとりながら新たな視点を発見していくための技術を発揮する現場です。各講師の“アート”に触れるとともに、参加者自身の“アート”を磨き、インクルージョンやダイバーシティを体感することをめざします。

インクルージョンを考える連続講座

会場 | オンライン (zoom ウェビナー)

定員 | 各回 100名 (先着順)

参加費
無料

7月16日(土) 14:00-16:00

東京2020オリパラの経験から

講師 | 栗栖良依

認定NPO法人スローレーベル理事長、
東京2020パラリンピック開閉会式ステージアドバイザー



7月30日(土) 14:00-16:00

あなたとわたしの“ちがい”から考える
アートマネジメント

講師 | 長津結一郎 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授



9月3日(土) 14:00-16:00

“表現未満、”という視点

講師 | 久保田翠

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長



10月1日(土) 14:00-16:00

“わからなさ”を楽しむ

講師 | 中野厚志 ぬかつくるとこ代表

丹正和臣 ぬかつくるとこ
アートディレクター



オープンカレッジ in アート

会場 | 鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ、
地域学部附属芸術文化センター・アートプラザ

定員 | 各回 20名 (先着順、2日連続参加の方を優先)

参加費
無料

7月27日(水) 14:00-16:00

28日(木) 13:00-16:00

からだを使ったコミュニケーション♪

講師 | 金井ケイスケ サークスアーティスト、
SLOW CIRCUS ディレクター



8月3日(水) 14:00-16:00

4日(木) 13:00-16:00

表現することは生きること

講師 | 中津川浩章 美術家、アートディレクター



8月8日(月) 14:00-16:00

9日(火) 13:00-16:00

相手のことを想うデザイン

講師 | 川崎富美 プロダクトデザイナー



8月23日(火) 14:00-16:00

24日(水) 13:00-16:00

カラダは天才!
だれでもコリオグラファー (藤村家)

講師 | 北村成美 ダンサー、振付家
湖南ダンスカンパニー ディレクター



学外からの
参加大歓迎!

お申し込み

下記よりお申込みください。

<https://bit.ly/am2022t>

※学外の方もご予約できます



主 催 | 鳥取大学地域学部 (担当教員: 川井田)

お問い合わせ | アートで感じるインクルージョン・ダイバーシティ事務局 (野口) am2022tottori@gmail.com

インクルージョンを考える 連続講座

文化芸術による社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を理念としてだけでなく、一人ひとりの気づきによって実現の可能性が拓かれていくことを目指す連続講座です。講師陣は日々それぞれの現場で、積極的なアートの実践を行っています。講座での対話を通して、彼らを支えている考え方を学び、私たちができることを一緒に考えます。

会場 | オンライン (zoom ウェビナー)

定員 | 各回 100名 (先着順)

料金 | 無料



オープンカレッジ in アート

多様な人々が参加するワークショップの講師経験をもつ方々を招き、それぞれ2日間の講座を開講します。1日目は講演を聴いてワークショップの準備を、2日目は実際にワークショップを行い、その後振り返りも行います。お話を聴くだけでなく、参加者全員での共同作業を通じて多くの気づきを得られることでしよう。

会場 | 鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ、
地域学部附属芸術文化センター・アートプラザ

定員 | 各回 20名

(先着順、2日連続参加の方を優先)

料金 | 無料



東京2020オリパラの経験から

日時 | **7月16日 [土]** 14:00-16:00

講師 | **栗栖良依**

認定NPO法人スローレーベル理事長、
東京2020パラリンピック開会式ステージアドバイザー

東京パラリンピック開会式では、その舞台に立つことで「自分を変えたい」「社会を変えたい」と願う障害のある人が全国に在るに違いない、という栗栖さんの想いから出演者オーディションの開催とアクセシビリティの確保が実現しました。2010年に自身が障害者となった栗栖さんに、アートがもたらすものは何かを伺います。

栗栖良依 Kurisu Yoshie

さまざまな分野のアーティストと共に、対話や協働のプロセスで社会変革を試みるアートプロジェクトを手掛ける。2010年に骨肉腫を患い障害福祉の世界に出会う。翌年、SLOW LABEL 設立。2014年ヨコハマ・パラトリエンナーレ開催をきっかけに舞台制作やイベントにおけるアクセシビリティの研究開発に取り組む。現在、世界75ヶ国で実践されているソーシャルサーカスを国内に普及する活動に取り組む。



からだを使ったコミュニケーション♪

日時 | **7月27日 [水]** 14:00-16:00

28日 [木] 13:00-16:00

講師 | **金井ケイスケ**

サーカスアーティスト、SLOW CIRCUS ディレクター

金井さんの実践しているソーシャル・サーカスは、心身を解放し、一人ひとりの可能性を呼び覚ますものです。自分を信じ、仲間とつながる力を育むソーシャル・サーカスは、東京のパラリンピック開会式でも用いられました。お互いの力を出し合せて、ひとつのチームをつくっていく経験をしてみませんか。

金井ケイスケ Kanai Keisuke

中学生で大道芸を始める。文化庁国内研修員として能を学んだ後、文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大 (CNAC) へ留学。フランス現代サーカスカンパニーを立ち上げ世界35カ国でツアーしヨーロッパ、アフリカ各地で滞在制作。2015年より障害のあるなしに関わらず共に創作活動を行うプロジェクト多数。東京2020パラリンピック開会式サーカス振付。2021年より認定NPO法人スローレーベル理事。



あなたとわたしの“ちがい”から 考えるアートマネジメント

日時 | **7月30日 [土]** 14:00-16:00

講師 | **長津結一郎**

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

「障害 / 健常」「マイノリティ / マジョリティ」などの境界線について考えるワークショップを各地で展開中。関係を築き直して両者が新たな価値の創出や芸術観、障害観等の変容を起こす「共犯性」が必要だという長津さんのお話を聴きながら、境界について考えてみましょう。

長津結一郎 Nagatsu Yuichiro

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走 / 伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行なっているほか、音楽実技やワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースにも関わる。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（単著。九州大学出版会、2018年）など。



表現することは生きること

日時 | **8月3日 [水]** 14:00-16:00

4日 [木] 13:00-16:00

講師 | **中津川浩章**

美術家、アートディレクター

各地の福祉施設などで表現活動のサポートを続けている中津川さん。自ずとアート・福祉・教育などの分野を横断しながら、社会とアートの関係性を問い直すことになり、ご自身の表現活動にも影響を及ぼしているそうです。お互いに表現することを通じて「アートとは？」についても考える機会になるでしょう。

中津川浩章 Nakatsugawa Hiroaki

1958年生まれ。アーティストとしての制作活動と同時に、さまざまな分野で社会とアートをつなぐ活動に取り組む。バリアフリーワークショップ、障害者のためのアートスタジオディレクション、展覧会企画・プロデュース、キュレーション、選考委員など全国で多数務める。NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事、一般社団法人 Get in touch 理事、(同)表現活動研究所ラスコー代表。



“表現未満、”という視点

日時 | **9月3日 [土]** 14:00-16:00

講師 | **久保田翠**

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長

誰かが熱心に取り組んでいる行為を「とるに足りない」「役に立たない」とするのではなく、その人固有の「表現」としてとらえると、いままでとは違うその人のあり方が見えてきます。これらを「表現未満、」と命名し、大切にしていく文化を育てる活動を行っている久保田さんと「あるがまま」について一緒に考えてみませんか。

久保田翠 Kubota Midori

東京藝術大学大学院美術研究科修了後、環境デザインの仕事に従事。長男の出産をきっかけに、2000年にクリエイティブサポートレッツ設立。2010年障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァスタート。2018年たけし文化センター連尺町を開所。2017年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2022年度静岡県文化奨励賞受賞。



相手のことを想うデザイン

日時 | **8月8日 [月]** 14:00-16:00

9日 [火] 13:00-16:00

講師 | **川崎富美**

プロダクトデザイナー

東京から鳥取へUターンされた川崎さん。転居の理由のひとつは「小さな経済圏で生活したい」ということでした。デザインの役割を考え続ける中で生み出されたワークショップの実践を紹介していただきながら、「コミュニケーションとしてのデザイン」を経験していきましょう。

川崎富美 Kawasaki Fumi

鳥取市出身。岡山県立大学卒。デザイン事務所勤務を経て、2007年から(株)良品計画生活雑貨部のインハウスデザイナーとして、[無印良品]の商品企画・デザイン、[Found MUJI]、郷土玩具の缶詰 [福缶] を担当。Uターンし、2018年よりフリーランスデザイナーとして開業。Am'sの店舗デザイン、鳥取民芸美術館のグラフィックデザイン等を手がける。2020年より鳥取大学非常勤講師。



